eLA つうじん

eライブラリアドバンス

2021年 5月号 Vol.194



愛媛県西条市立 氷見小学校(氷見地域未来塾)

ICTは多様な学びの強い味方

~ e ライブラリでー人ひとりの学びを大事に~

愛媛県西条市では、ICTを活用した「学びあい学習」の充実を目指しています。その取組の一環としてeライブラリを活用している、氷見小学校の授業と地域未来塾の様子を紹介します。

l e ライブラリで「待ち時間」をなくす



▲ 教科書の問題の答え合わせとやり直しを終えた 児童から、e ライブラリのドリルを始めます。

算数 小数のかけ算

4年 米田 遥先生の授業では、「小数×2けたの整数の筆算」の問題演習に、教科書と、eライブラリのドリルを利用しました。

「教科書が終わった人には、e ライブラリで課題を 出題しています。」途中、先生から声掛けがあり、児 童は各自で e ライブラリにログインし、ドリルに取り 組みます。

このように「早く終わったらeライブラリ」の流れを定着させておくと、**児童は待ち時間なく多くの問題** 演習ができ、先生には、つまずいている児童への個別 対応の時間が生まれます。

▋「学びあい」と全体共有、最後は振り返り



▲ いつもはノートに書くか、発表する振り返り。 パソコンで先生に送ることは特別感があります。

「学びあい」を大事にしているという氷見小学校。 米田先生のクラスでも、わからないところは隣同士で 話し合って、解決しようとする姿勢が身に付いている そうです。先生はサポートにまわり、話合いの様子を 見ながらつまずく児童が多い問題をピックアップし、 全体で共有します。

授業の最後の5分間は、e ライブラリで振り返りを入力し、先生に送信します。わかったこと、難しかったこと、もっと知りたいことなどを自分なりにまとめることで、「今日のめあてに対し、自分はこうだった」と意識することができ、主体的な学びにつながります。

インタビュー 活用しながら、最適な場面をみつける

宿題などで毎日使う「音読カード」に e ライブラリの I Dカードを貼っており、ログイン操作を各自に任せても、手が止まる児童はいません。

活用しながら、主に算数の問題をたくさん解かせたい場面で、ドリルを使う ことが定着してきました。

「ふりかえり」ではドングリの成長を喜び、「もっと育てるため毎日コツコツ勉強します!」とメッセージを送ってくれます。

ドリルに取り組む児童の様子や、メッセージの内容に発見があり、児童と教師の間に新たなコミュニケーションが生まれています。





■地域の方の見守りがうれしい、地域未来塾

氷見小学校では週に一度、5年生の希望者を対象に「氷見地域未来塾」を開催しています。教員OBであり、地域未来塾で学習支援員をされている十河先生、伊藤先生にお話を伺いました。

「学習習慣を付ける手立ての一つに」「授業で難しかったところを その日のうちに解決」をねらいに、地域未来塾を運営しています。ほ かにも放課後活動はありますが、5年生の半数以上が、自ら地域未来 塾への参加を決めました。

e ライブラリは、自主的に学習できる手段として、授業や家庭学習で利用されてきたことから、校長からの提案があって地域未来塾でも取り入れました。



学習支援員 十河 格先生(左)、伊藤 俊先生(右)



▲ 難しい問題は、学習支援員の 先生が一緒に考えてくれます。



▲ その場にあるものを使って 「即席授業」。

e ライブラリのドリルは教材と難易度を 自分で選んだ上で取り組むので「この単元 がこれくらい得意だ」「ここを注意すべき だ」と自覚することができます。一方、解 答が選択式ですので、「当たった、外れ た」としないで、しっかり立ち止まって考 えるよう、声掛けをしています。

児童の様子

- e ライブラリの I Dカードは常に身近にあり、ログインがスムーズにできる。
- 授業では、先生が「単元指定学習」で出題しているので、ログイン 後、すぐにドリルをスタートできている。
- めあてと振り返りを意識しながら学習している。



▲ ログインすると、課題が 表示されます。

インタビュ**ー** e ライブラリで「個」も「学びあい」も

e ライブラリは、児童へ「自分のペースで良いんだよ」と伝えられる、頼りになるツールです。端末があれば、教室、図書室、自宅、どこにいても学ぶことができます。また、内容が苦手なら学年をまたいで戻って良いし、得意ならどんどん先に進んで良いのです。多様な児童の居場所づくりにもつながります。同時に、まずは自分でやってみて、わからないことは友達同士で話し合ってみるという「学びあい」の姿勢が児童たちにあり、e ライブラリは良き媒介となっています。





一人一台のタブレットと、数年先を考えた授業づくり

e ライブラリはじめ、I C T を活用した指導について、提案や、実践後の意見など、教師間で情報交換をしています。特に、一人一台のタブレットが導入されることに関しては、今後数年の変化も考え授業づくりをしなければと皆で話しています。

そのような中、すでに積極的に活用しているeライブラリは、タブレットが増えればより利用場面が増えるだろうと、楽しみにしています。

※2020年4月リリースのeライブラリ最新版を利用しています。 ※ 本紙の情報は取材当時(2020年度)のものです。



ラインズ株式会社